

地方病院図書室の悩み

高山赤十字病院

岡前久美子

図書室スタートにおける問題

昭和53年、病院の改築に伴い図書室ができ、その図書室に4月より私が司書として勤めることになりました。

当病院は、地方の小さな町にある病床数が360、職員数約400名の中小病院です。図書室スタートの当時を考えてみますと、手さぐりの状態で、とまどいばかりでした。図書室の仕事に対する未熟さから図書室の体制を整えるのに手間がかかり、今なお不十分な状態です。それは次の点が特に原因となりました。

- 1) 司書資格はあっても実務経験がなかったこと。
- 2) 図書室で扱う資料は医学書が大半であるのに、その方面の知識が皆無であったこと。
- 3) 協力を求めるべき大学図書館、病院図書室が近くなかったこと。
- 4) 図書室ができたばかりで、それまでの実績、歴史がないこと。

まず、学生時代の参考書をもとにして、図書室の整理（NDC—日本十進分類法—を使用しての、分類・目録カード作成・所蔵雑誌目録の作成）を約一カ月かけて終了させ、次いで、本の貸出と文献の複写を中心とした図書室活動を始めました。一応形は整えたつも

りでしたが、図書室を利用する人は多くはありません。図書室が出来たということのPRが不足であったこと、蔵書内容が貧弱で、欲しい資料が少なすぎたこと等、利用者と資料（図書）を結びつけるための積極的な働きかけが欠けていたせいですが、初心者の私にとっては分らず、途方にくれる状態でした。

朴木氏¹が、病院図書室には充分育った人材が必要であることを指摘されていますが、このことは新しく図書室をスタートさせる場合には重要なことと、同感せざるをえません。ただ、地方においては人材も恵まれていないため、私のようなケースになるのかと思われるのですが、自分の未熟さを補うために勉強をしようにも、十分な資料が見つかりません。図書室の仕事内容については、公共図書館、大学図書館を対象とした資料は多くありますが、病院の図書室といった小規模な、そして特殊な図書室に適したものは極端に少ないのです。

経験豊かな図書室担当者にとっては当然前のことが、初心者にとっては分らぬことばかりということもあります。病院図書室と他の図書室とを比較した時、どういう点が違うのか、どういう業務が必要となるのか、又可能であるのか、について具体的に書かれた資料が少

いようです。

最近では、当協議会（近畿病院図書室協議会）が新規加盟の図書室に対して訪問指導をしたり、専門コンサルタントを紹介することが可能になった事を知り心強く思っていますが、地方の場合はそれもままならない現状といえます。また、研修会に参加して勉強したくども、なかなか容易に出かけることもできません。

現在、日本病院会にはメディカル・セレクトリーや、診療録管理士養成のための通信講座がありますが、これらを図書室担当者のために拡げることは不可能なのでしょうか。病院それぞれの事情により、図書室の在り方が異なるとはいえ、機能論を考えれば、共に共通する部分があることと思われます。

情報学、文献検索法、図書館学、医学基礎知識と、学びたいことは沢山あります。

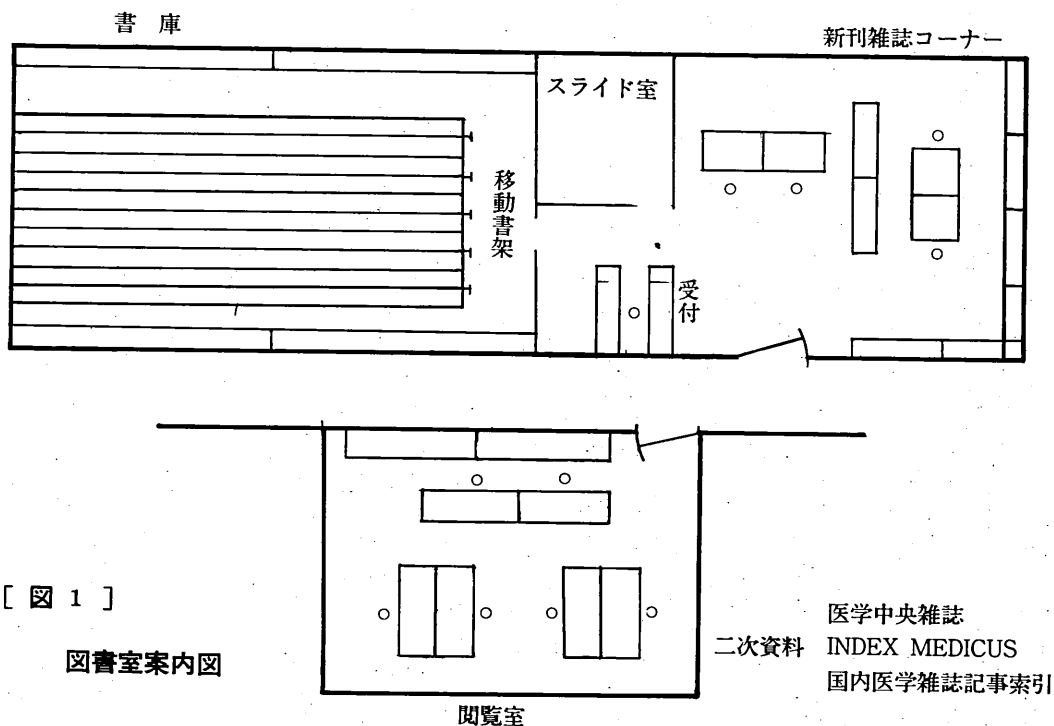
現在の当図書室の様子について

[図1]は当図書室案内図で、[図2]は利用案内です。

この図に示したものの他に、病院の紀要の仕事も引き受けており、来年度からはスライド作成の機械を預かることになっています。このように図書室のサービスも少しずつ巾広く拡大しつつある状態です。

図書室の利用者も、昨年と比較すると二倍に増加したとはいえ、まだ活潑に利用されているというところまでにはゆかず、今後の問題となっています。

現在、病院長をはじめ図書委員の先生方の理解が得られて、図書の収納能力を拡大するために移動書架の設置工事が進められています。また昭和55年度の図書購入のための充分な予算がすでに組まれており、喜こんでいます。



[図 2]

高山赤十字病院

図書室利用案内

